

子宮体がんに対する腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術

■はじめに

2020 年度から「腹腔鏡下傍大動脈リンパ節郭清術」が保険適応になりました。

■手術について

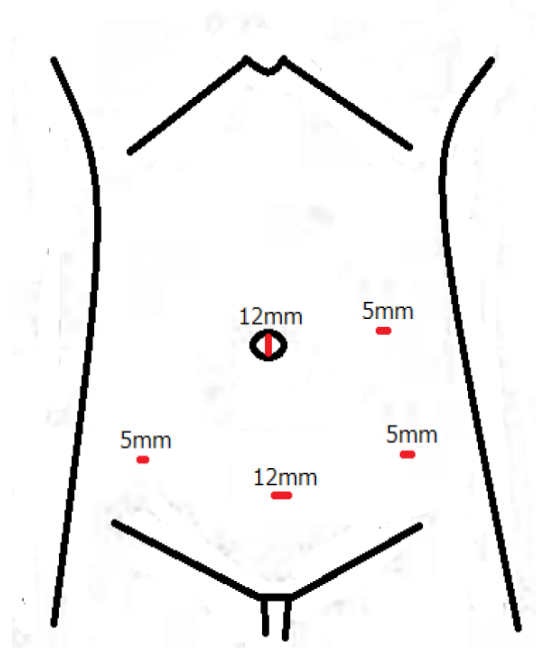
手術は産婦人科内視鏡技術認定医と婦人科腫瘍専門医をともに取得している医師 3 人が対応します。

手術創は右の図のとおり、おへそとその周囲に 1～2 か所と下腹部 3 か所に 5～12 mm の創をつくり行います。（腹腔内の状況によって手術創の位置が変わる場合があります。）

また、他臓器損傷や多量出血が生じて腹腔鏡手術では対応できない場合は、開腹手術に移行する可能性があります。

■開腹手術と比べてのメリット

- ・開腹手術と比べて入院期間と社会復帰までの期間が短くなります。
- ・開腹手術と比べて手術後の痛みが軽くなります。
- ・開腹手術に伴う合併症、すなわち手術創の縫合不全、腸閉塞、輸血などのリスクが減ります。
- ・手術後に追加治療が必要な進行がんであった場合は手術後早期の治療が可能となります。
- ・手術の傷が小さく、美容上のメリットがあります。（開腹手術では胸の下から下腹部までの 30 cm 以上の傷となります。）



従来の医療と比べて有効性が低下しなければ、より負担の少ない低侵襲手術をすることでより早い社会復帰が期待できます。病気の状態を十分に評価して問題がなければ、安全で確実な低侵襲治療を積極的に提供すべきだと私たちは考えています。